

であいこうか

DEAI 18 KOKA
地域で活躍されている元気な方を紹介するコーナーです。



2nd STAGE (セカンドステージ)
左から Sukichan, Kaz, daichi, PE, itsuki

甲賀市から全国へ熱い音を発信するロックバンド「2nd STAGE」
今年4月に2枚目のCD「T REMOLO (トレモロ)」を発売。全国各地でのライブ活動も大盛況、まさに破竹の勢いのロックバンドです。
2nd STAGEは、Kaz (ヴォーカル)、Sukichan (ギター)、PE (ベース)、daichi (ドラムス)の5人のメンバーで構成され、そのうち4人が甲賀市出身で、現在も市内の自宅から音楽活動に通っています。
2006年12月に、別々に活動していた2つのバンドが合体、「自分たちの音楽で日常とは違う別の舞台を作り、そしてその舞台をみんなと共有したい」という思いから2nd STAGE



バンドとファンが一体、熱いステージ

「演奏しているステージ上から、ファンの顔を見ると、凄く良い顔をしています。それがバンドのエネルギーになり、さらに良いステージにつながります。みんなが一体になれるライブの瞬間が一番うれいです。」と話すメンバーの皆さん。妥協を許さないメンバー、方針や曲作りなどでぶつかり合うことも多々あるそうですが、チームワークで乗り越え、さらに前へ進みます。「音楽は人いろいろな面を力を与えると思います。自分たちも音楽に力をもたってきました。そういう力を与える立場に自分たちもなれたらと思います。」とゆくゆくはメジャーデビューをめざし、春先に3枚目のCDを発売することを視野にいれ、目下精力的に活動中です。
「2nd STAGEとしてデビューして1年半、これからは精一杯頑張るんで応援よろしくお願いします。これからの動向に目が離せません。」



力士に直接まわしを締めてもらうちびっこ力士

大相撲力士とぶつかり稽古

朝早くから綾野小学校に響く掛け声。8月4日から7日、大相撲三保ヶ関部屋

ふれあい水口合宿が行われました。この合宿は、三保ヶ関親方(元大関増位山)、同部屋力士7名らが、綾野小学校相撲場で朝稽古を行ったもので、同時に、相撲文化の普及やスポーツ精神を養う機会として、小中学生との

ふれあひも行われました。5日には、希望ヶ丘スポーツ少年団、6日には伴谷スポーツ少年団が稽古を見学、生で見る力士の激しい練習に圧倒されながらも、勝負の厳しさや礼儀を学びました。練習の終わりには、実際に土俵に上がり、力士とぶつかり合い。最初は全く歯が立たず最後はスポーツ少年団員全員で勝負、見事な勝利に土俵上に歓声が沸き起こりました。

不思議、光る液体を作成

～チャレンジ！子ども科学教室～

8月12日積水化学工場(株)水口工場で、市内の小学生を対象にチャレンジ！子ども科学教室が行われました。

この教室では、薬品を使ってのいろんな実験が行われ、中でも、サイリウムという祭りの夜店などで見かける光る液体をつくる実験では、児童が直接薬品を調合、オリジナルの光る液体を作りました。会場の電気を消した瞬間、色とりどりの光が揺れ、会場が幻想的な空間に変わりました。

児童は普段見たことのない不思議な実験に興味深く観察、体験し、科学の不思議さ、おもしろさを発見できたようです。



慎重に薬を調合する児童

聞いてほしい、私たちの思い

～十代の主張水口大会・子ども輝き講演会～

市青少年育成市民会議水口支部主催による2008年度(第29回)十代の主張水口大会が7月26日、あいこうか市民ホールで開催されました。

当日は、水口地域の中学生5名が、日頃から保護者や先生、地域の方々に伝えたい自分たちの思いを発表、会場は約800名の方で埋め尽くされました。

生徒からは、自分の夢についてや障害と向き合う思い、日本へやってきて困った経験を今後に生かしたい思いなどが発表され、会場の皆さんから惜しみない拍手がおくられました。

また、十代の主張に続いて、子ども輝き講演会も行われ、夜回り先生で知られる水谷修氏が「あした笑顔になれ」と題して講演、子どもたちが直面している課題についての話がありました。



水谷修氏「あした笑顔になれ」

平和への祈りを込め、 川を彩る光の帯

～川川夏まつり～

8月16日、川川河畔で川川夏まつりが行われました。照りつける太陽が西に傾き、昼の暑さも収まりはじめた夕暮れ、かがり火の炎が空を赤く染め上げ、その後ほら貝の音色とともに平和への祈りを込めた灯籠がゆつくりと流れ出し、川面を照らしました。訪れた人は、幻想的な幽玄の世界を堪能し、お盆を彩る風物詩を楽しみました。



川面をオレンジ色に照らす灯籠

手作り竹灯籠でまつりを演出

～大原上田区昭和会～

甲賀町大原上田区で、竹を使って灯籠作りが行われました。これは、大原上田区の区民の方で作る「昭和会」の皆さんが、区の手配する竹林の竹を使って作ったものです。大きく育った竹20本を短く切り、端を斜めに切り、節を丁寧に取り、その中にろうそくを立てて入れて完成。こうしてできあがった200個の手作り竹灯籠、灯りがともるとまるでそこからかぐや姫が出てくるかのようなのです。この竹灯籠は、地域の納涼祭で会場に並び、まつりの雰囲気を一層盛り上げました。



完成した竹灯籠を並べる地元児童

故青木しみゑさんご遺言で1002万円をご寄付

以前水口町にお住まいになっておられた故青木しみゑさんは、ご遺言の中で夫富夫氏(故人)が幼い頃を過ごした水口をこよなく愛し、生前に水口町の小学校や図書館の図書充実にと、寄付を続けておられたご遺志を尊重したいと、したためておられ、このたび1002万円をご寄付いただきました。

故しみゑさんのご遺志に添うよう教育行政の貴重な浄財として、大切に使用させていただきます。